

若手農業者に農業者年金PR

柏原4Hクラブが研修会開く



講習会では質疑応答が活発に行われた

柏原市の若手農家で構成する柏原4Hクラブでは1月16日、総会に合わせて農業者年金制度講習会を開催。会員の若手農家9人を対象に制度周知を行った。

農業会議からは林農政課主事、柏原市農業委員会事務局から山本昌弘主査、JA大阪中河内営農経済部から網谷友希主任が出席し、加入推進を実施した。

講習会でははじめに、林主事が農業者年金の必要性、主な特徴とメリット、旧制度から新制

度へ改正された際の変更点について解説。特に、新制度では若手農業者を手厚く支援する仕組みとして保険料の国庫補助が受けられる「政策支援加入」が設けられている点や、年金財政方

農業者年金

保険料上限額7万4千円に引き上げへ

昨年12月26日に閣議決定された令和8年度制度改正大綱において、農業者年金の保険料上限額を現行の月額6万7千円から7万4千円へ引き上げた場合でも、社会保険料控除などの現行

の税制上の措置を引き続き適用する旨が盛り込まれた。

農業者年金制度は、老後所得の充実により農業で生計を立てる担い手の確保に寄与しようとするものだが、平成14年度以降

式が少子高齢化に強い積立方式へと転換された点について、重点的に説明した。

参加者たちがスマートフォンを使用して加入した場合の保険料額や将来的な受給額をシミュレーションする実習を行い、制度への理解を深めた。(林佑)

創設当時の基準額が据え置きとなっていた。

こうした状況を受け、課税の公平性の確保と、今般保険料上限額の引き上げが措置された国民年金基金等の拠出限度額7万5千円(現行6万8千円)と整合性を採るため、農林水産省は税制改正要望を提出していた。(林佑)

女性視点を活かした
農業経営を考える
女性農業者交流会

近畿農政局大阪府拠点では1月15日、地域活動の活性化を図るため大阪府女性農業者交流会を開催し、女性農業者や農業に関心を持つ女性などが会場・WEBを合わせて17人出席した。

交流会では初めに、摂南大学農学部副島久実准教授が「農業経営における女性の強みとは？」と題して講演した。冒頭で、顧客は商品そのものではなく「助けたい(満たしたい)用事」を解決するために商品を選んでいると説明。農業経営において、女性は①農産物を購入した後の利用場面まで想像できる消費者の視点、②顧客の需要に応じた商品企画力、③農産物とともに農業の意味や価値を伝え、関係性を築く力といった「用事」を満たす能力に優れると述べた。

次に2人の女性農業者による取り組み紹介として、豊能町でヤコンなど少量多品目の野菜を生産しながら多様な事業を展開する森下未来さんと、泉南市で水稲や西洋野菜などを生産し、農業委員も務める立道智恵さんが登壇した。

農業体験やキッチンカーでの加工品販売も行う森下さんは、自身の活動に影響を受けて「自分もやりたい」と申し出た人に助言しながら農業と商品開発を実践するプログラム「畑のがっこう」について説明。農業を起点に多様な人材とつながること



交流会には摂南大学農学部食農ビジネス学科の学生も参加し、女性農業者の意見に耳を傾けた